

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月18日

【評価実施概要】

事業所番号	2371001088		
法人名	株式会社フレンズハウス		
事業所名	グループホーム フレンズハウス大塩		
所在地	名古屋市中区大塩町三丁目25番地 (電話) 052-352-0820		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年6月15日	評価確定日	平成19年7月17日

【情報提供票より】(平成19年5月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 15年10月15日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 4人, 非常勤 5人, 常勤換算 5.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,500 円	その他の経費(月額)	31,500 円	
敷金	有(円) <u>無</u>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> (172,500 円) / <u>無</u>	有りの場合 償却の有無	<u>有</u> / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(平成19年5月4日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	73歳	最高	96歳
協力医療機関名	堂満医院				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅街にあり広い道路に面しているが、花壇を有効的に使い安全に配慮し親しみやすい玄関周りとなっている。職員は「友とふれあう我が家」のように常に笑顔を大切に、入居者と同じ視線でふれあっており、個人の尊厳を守り一人ひとりのペースに合わせて支援を行っている。裏庭は管理者手作りのベンチが置かれ落ち着いて過ごせる場所になっている。管理者は入居者も職員も共に居心地よく過ごせるよう心がけている。地域の行事には積極的に参加し交流を図っているが、地域からの反応はまだ少ない。今後は地域密着型のサービスの役割を考えながらの働きかけを期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の結果は全職員に伝えている。改善課題である地域との交流の取り組みとして、今年度よりこども110番の家となった。道路からわかりやすいよう看板の設置場所の工夫をした。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は評価の意義について職員に説明した。記入式の自己評価は初めてのため質問が多くあったが皆で積極的に取り組んだ。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議には入居者がメンバーとして出席している。ホームの状況、行事計画、実地指導等の報告が行われている。外部評価の結果、その後の取り組みについても報告されているが、話し合いには至っていない。今後は事業所からの報告に留まることなく、話し合いを通じてメンバーから意見をもらい、サービスの向上につなげていくことを期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情を受け付ける窓口を設置しているが現在は苦情等はない。面会や電話連絡の際に家族が気づいたことを聞いたり話し合っている。法人合同の家族会があり、意見等聞いている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	草取り、盆踊り、運動会、ソフトボール大会等地域の行事に積極的に参加している。七夕などのホームの行事について地域の住民やこどもたちに参加を呼びかけ交流に努めている。数は少ないが近所からの声かけや青空市場の誘いなどある。老人会にボランティアを呼びかけるなどホームの理解を進める働きかけをしている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	「家庭的なぬくもりの中で」「ゆとりと安らぎの ある我が家」のようなホームを目指している。ご 近所づきあいを大切することを心がけ、地域との 交流に取り組んでいるが、地域密着型のサービス の内容を反映した理念にはなっていない。	○	地域密着型サービスの意義と役割を確認しなが ら理念を見直し、事業所独自の理念を作り上げ ることが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念 の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は理念について折に触れ職員に話し、また 日常の介護の中で具体的に伝えている。職員は理 念を念頭に置いて、笑顔で日々の支援にあたっ ている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員 として、自治会、老人会、行事等、地域 活動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	小学校の運動会に職員が出場し、入居者がお弁当 を持って応援に出かけた。回覧板を届けたり近く の家の枇杷の実をいただいたり盆踊り、公園の草 取りなど地域の行事に参加して交流に努めてい る。こども110番の家になっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	管理者は評価の意義について職員に説明し、職員 は自己評価に真摯に取り組んだ。前回の外部評価 を受け、地域との交流の一つとしてこども110番 の家となり、看板を道路から見やすくなるように 工夫して設置した。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>入居者も会議のメンバーとして参加しており、意見を述べている。会議では行事予定や計画、市からの実地指導等の報告が行われている。報告が中心となっており、サービスの実際や評価結果についての話し合いまでには至っていない。</p>	○	<p>会議では事業所からの報告にとどまることなく、話し合いを通じてメンバーから率直な意見をもらい、サービスの向上に活かしていく取り組みが望まれる。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市内の近隣の区の担当者を訪ね情報提供を行っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月書面でホームの様子を伝えている。入居時に月に1度の訪問をお願いしており、その際に話や、こづかい帳の確認をしてもらっている。訪問できない家族には電話で伝えている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会は法人合同で年1回開かれており、家族が意見、要望を出せる場となっている。普段は面会時や電話連絡の際に気づいたことなど聞いている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内の異動はない。退職を最小限に抑えるよう働きやすい職場づくりに努め、退職の場合は入居者が安心して受け止めることができるよう理由を伝えている。新任者2日間の現場研修の後、1週間はなじみの期間としてユニフォームを着ず、実習生のように普段着で接し、自然に溶け込めるよう工夫をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全ての職員に研修を受ける機会を確保している。法人内の研修は、3カ月に1回あり、職員が交代で参加し、他の職員は報告書で内容を把握している。管理者は実際のケアの際にも指導している。外部の研修や講習会の案内もしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会では、運営推進会議、職員確保の方法等の情報交換を行い、質の向上に努めている。区事業者連絡会では福祉関係の一般的な情報を入手しケアに活かしている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の面接では本人にもホームに来てもらい、ホームの雰囲気を体験してもらっている。入居後は、家族とも相談しながら本人のペースに合わせ支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者から元気づけられたり、いたわりの言葉をかけてもらったりしている。若い職員は裁縫や料理を教えてもらったり、恋愛の話を聞いてもらうこともある。一緒に過ごし支えあう関係になっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>バックグラウンドシートで、生活歴、趣味、好きなこと嫌いなことを把握、また日々の会話や行動の中希望や意向の把握に努めている。困難な場合は本人の視点に立って考えた声かけをして、表情や様子で意思確認をしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、アセスメントの情報、必要な場合は居宅療養管理指導などを参考に、本人や家族からの聞き取りをもとに作成している。担当職員は、日常生活の中で入居者の話を聞いたり、行動の中から要望を汲み取って計画につなげている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直しは3カ月に1度行うが、変化が生じた場合は随時対応している。職員は計画を確認しながら記録をとり、記録をもとに評価を行っている。家族、関係者の意見も聞いて見直している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>かかりつけ医受診の時は状況により付き添っている。治療が必要な場合、なるべく本人、家族の負担にならないよう医療機関とも連携を図っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医の受診は可能であるが、家族の付き添いを原則としており、結果を職員に報告してもらっている。協力医による訪問診療が週1回あり、結果報告を受けている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>「重度化時における医療サービス提供に関する指針」があり、早期から、本人や家族と話し合う機会を持ち柔軟に対応している。現在専門医にかかっている入居者は、家族、医療機関と話し合っ入居を続けており、悪化した場合についても話し合っている。職員間でも重度化について話し合っている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報の取り扱いは注意を払っている。一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重し、誘導時の声かけや居室に入る時の声かけも気を配っている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>無理強いすることなくその人に合ったペースで支援している。朝食の時間が遅くなった時は、新しく軽食を用意している。居室でゆっくり横になって過ごしたり、居間でおしゃべりをしたりと思い思いに過ごしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けを一緒に行い、入居者はできることを手伝っている。職員も一緒に食事を楽しんでいる。自分のペースでゆっくり食べている入居者もいる。買い物の際、食べたいものがあったときは献立になくても取り入れたりする。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は希望があれば毎日できる。大方の時間は決められているが、本人の希望に応じゆっくり楽しんでもらえるようにしている。入浴拒否の期間が長い場合は、医師から声かけしてもらうなどの工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの楽しみごとや得意とすることを職員が把握し場面づくりをしている。玄関周りの花壇の水まきや手仕事など、職員が一緒になって楽しむことで、入居者の意欲や活力を引き出している。困難な場合はできることを職員が支援し笑顔の場を作っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事として、買い物ツアー、一泊旅行、日帰り旅行など行っている。入居者と一緒に食材を買いに行ったり、近くの青空市場に出かけている。外出のついでに喫茶店に入ることもある。履物や服の買い物など一人ひとりの希望に応じることも可能である。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解している。玄関前の道路の交通量が増えたことや、町内に不審者の情報があることから、家族の了解を得た上で玄関のみ施錠している。外に行きたい様子が見られるときは、近所を散歩したり花壇の水やりをしたりしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回行われており、今後消防署と連携した訓練が計画されている。地域の協力体制として、町内会に災害時の協力をお願いしている。非常用飲料、食料、ヘルメット、災害時用ラジオ等の備品を準備している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量はチェックしている。カロリー、栄養バランスについては施設の献立を参考にしたり、栄養士の資格を持つ職員のアドバイスを受けている。血液検査の結果や体重に気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には私物を置かず、安全に過ごせるようにしている。季節を感じさせる飾り物や花、行事の際の生き生きとした表情の入居者の写真が飾られ、居心地のよい空間となっている。音や光、風通しにも気を配っている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各々の好みの防災用カーテンが掛けられ、ベッドとエアコン以外は使い慣れた物品が持ち込まれている。鏡台や仏壇が置かれ、人形や写真が飾られていてその人らしい居室となっている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。